

角館町雲然柿漬物販売記念試食会
地域運営体の取り組み、商品化へ

地元の特産品である雲然柿を使った大根の柿漬けの商品化にあたり、1月13日、試食会が角館プラザ内で行われました。

この漬物は、雲沢地域運営体（高橋惣十郎会長）の雲然柿漬物研究会のメンバー8人が約1年試行錯誤し完成させたもの。

高橋会長は「この試食会には多くの方に参加いただき、販売に向け最高の船出だと感じている。みなさんの気持ちをこの商品に込めてブランド化に向かって必死にがんばっていく」とあ



いさつしました。漬物は今後、花葉館などで販売する予定。問合せ/雲沢地域運営体会長 高橋 53・2916

コミュニティ助成で購入
音響機材貸し出します

市ではこのたび、宝くじ助成金をもとに地域のコミュニティ活動に使用する、貸出用オーディオセットを購入しました。これらの機材は地域の行事やイベントに無料で貸出します。



機材内訳/ミキサー、パワーアンプ×2、CD・MDデッキ、ワイヤレスマイクレシーバー、ワイヤレスマイク×2、マイク（スイッチ有）×4、マイク（スイッチ無）×4、マイクスタンド×8、スピーカー×4、スピーカーカースタンド×4、その他各種ケーブル等
問合せ/ 観光課 43・3352

話
第9回全日本ジュニア空手道選手権大会

田川礼君全国3位

12月25日に行われた全日本ジュニア空手道選手権大会で、田川礼君（角館小5年）が小学5年生上級重量の部で見事全国3位の成績を収めました。田川君は「3位になれてうれしいけど、次の全国大会では絶対1位をとりたい」と力強く話してくれました。



まちづくり日記

No.36

「未来を生きる皆さんへ」

仙北市長 門脇 光浩

進学や就職で、新たな門出を迎える皆さん、未来は皆さんの手の中にあります。

ごこの学校を目指し、どんな職場で来る人生に備えるか、目標の設定に悩んで、友達や家族などへ何度も相談をしたことでしょうか。でも「最後は自分で決めた」のです。先生や親のアドバイスは代え難いものですが、「周囲の意見に従った」のではなく、周囲の意見を参考に、あなた自身が自分で決めたのです。あなたの人生に、あなた以外の主役は存在しません。

人生は判断と行動の連続です。考え尽くして引き出した判断が正しいかどうか、それだって分かりません。それが世の常です。

ある先輩が、「何かに寄りかかっていた、そんな気弱な時に読んだら良かった」と、曾野綾子さんの本を薦めてくれました。それで走り読みをしています。次のような言葉がありました。「人の言ったことで不幸になってはたまりません。うーん、いろんな受け止め方ができる言葉です。例えば「不用意に受けた言葉で傷ついたり、あれこれ思い悩むなど全く無駄なこと」と言う解

釈もできますし、「他人の考え方を参考に行動したら、それが本意な結果となってしまう、これは全く迷惑なことだ」とも読み取れます。

人間は感情の生物ですから、いつも正解を導き出せるとは限りません。お腹の減り具合やお天気に左右されて、「いつもだったらあんな失敗はしないのになあ」みたいなことだって起こります。そして多くの場合、その失敗の原因を何かにすり替えたくなるのが人情です。「体調が悪くて」や「時間がなくて」は、まだ自分の内側に潜む責任を自覚した反省で、見所があります。「あなたがあんなことを言っから」と言われたら、これは考えただけでもソツとします。この心持ちでは、一人で再スタートを切ることもできません。

いつも、判断の最終決定権は自分以外にないと、強く心に刻んでおくことです。そして間違いに気がついたら、やり直すことです。その道程では誤解を受けたり、非難があったりするでしょうが、あなたを理解してくれる人が、きっと現れます。頑張ってください！

山田町との災害時相互応援協定調印式
災害時に物資などを支援

1月20日、岩手県山田町の沼崎喜一町長らが仙北市役所を訪れ、仙北市と「災害時相互応援協定」を結びました。

この協定は、仙北市が東日本大震災で被災した山田町を支援したことをきっかけに、昨年10月、山田町からの申し出があり協議を進めてきたもの。災害が発生した際、被災した自治体を支援するため、食料や生活必需品の提供、被災者の救出や医療に必要な物資の提供、被災者の受け入れ施設の提供、職員の派遣などが盛り込まれました。

沼崎町長は「仙北市の現地本部を設置しての支援や民間の皆様への炊き出しなど、心温まる支援をいただいた。この協定を機に大きな絆を作り上げることができたと思う」とあいさつ。門脇市長は「市民、町民の安全安心の向上につながればありがたい。今まで通りお役に立てることがあれば一生懸命努めたい」と話しました。



協定に調印し、握手をする 門脇市長と沼崎町長



拠点を置いた山田町の民宿。東日本大震災後、仙北市は「大規模災害時の秋田・岩手横軸連携相互援助協定」を結んでいた宮古市に隣接する山田町に支援拠点を置き、主に宮古市、山田町、大槌町の3市町に支援活動を行った。